

67 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力 (38)
—船橋の最北端 旧小野田村を訪ねて (3) 光明寺祖師堂—

29期 仲田 元昭

旧小野田村の3回目、見事な寺院建築と村人以外見ることが出来ない独特な天井絵で有名な光明寺の祖師堂をご案内します。

「光明寺祖師堂」(萩堂、お堂とも呼ぶ)

祖師堂は、安房神社より5分程の高台の静かな山里の佇まいの林に囲まれ、独特な優雅さを感じられる「お堂」で、裏手には小野田城址の土塁が残っています。

地元で「萩堂」と呼ばれるのは、飛騨の匠が萩の木で作ったからと言われ、現在のお堂は明治元年(1868)に再興され、柱の一部に萩の部材が残っています。境内には安永5年(1776)の巡拝塔があります。

「祖師堂の本尊日蓮像」

堂内に安置されていた本尊の日蓮像は、今から530年程前室町時代後期文亀元年(1501)に法華経寺の開基・日常上人作で、小野田より南西に10Km程の中山法華経寺から移したと伝えられています。

江戸に出開帳されたことのある由緒ある日蓮像で、遠方からも多くの参拝者がこられたようです。今の本尊は明治時代初期地元街歩きガイド仲間の積田家の曾祖父が制作した日蓮像です。

「祖師堂(萩堂)の天井絵」

光明寺本堂には、立派な天井画がありますが、祖師堂(萩堂・お堂)にも独特な天井絵があり、この天井絵もガイド仲間の積田家のご配慮で見学出来、歴史と文化を感じさせてくれるお堂でした。

里山の雰囲気を感じる優雅な佇まいの古刹が、船橋最北端の集落小野田に今も残っております。

一度訪れてはいかがでしょうか。

(参考図書：地元積田家遺稿集、ガイド仲間矢島氏情報、船橋の地名を歩く他)
68 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力 (39) に続く 「寄稿：2026-6-1」



立派な光明寺祖師堂(萩堂・お堂)



祖師堂(萩堂)の扁額



厨子に安置された日蓮像



独特な天井絵